

塩谷郡市医師会だより

平成18(2006)年5月19日 第42号

社団法人 塩谷郡市医師会 さくら市桜野 1319 番地 3 さくら市氏家保健センター内 Tel 028(682)3518

- ・平成18年度第1回役員会
- ・塩谷地区休日夜間こども診療室開設1ヶ月が過ぎて
- ・学術講演会 - 冠動脈疾患の治療と予後 -

平成18年度第1回役員会報告

平成18年5月8日(月)午後6時30分よりさくら市氏家保健センター医師会事務室にて開催された。
出席者：尾形会長・小林、戸村副会長・西・後藤 軽部・奥山・根本・岡・阿久津博・本間・尾形新 植木・木内・谷口・川原事務長



議題1 各種委員会の事業計画について

産業医部会:平成18年度研修会日程は9月7日(木) 県医師会ケースカンファレンス、1月25日(木) 産業医研修会「労働衛生関係法令等」を予定している。

労働安全衛生法の改正から、過重労働に対する監督指導が強化され医師による面接が義務化された。

平成20年からは50人未満の事業場にも適応されるため、産業医の需要増加に備えたい(阿久津博)。

介護保険委員:これまでの介護給付に加えて、要支援・要介護者に対する、新予防給付や地域支援事業が始まり、各市町に地域包括支援センターが設置された。事業の管理監督は運営協議会が担うが、同協議会の委員長はぜひとも医師会員が引き受けて指導力を発揮して欲しい。

また、本年度も介護保険主治医研修会を予定している(小林)。

感染症対策委員:新日本脳炎のワクチンが夏頃に検定が始まるので接種再開の方向である。伝染病の治療証明書が不要とする保育園が散見されるが、口頭だけでは問題がある。証明書(500円)を書くようお願いする。

また、高齢者のインフルエンザ接種は2市2町での相互乗り入れを実現したい。自己負担は矢板、塩谷、さくらが1000円、高根沢が0円の予定(軽部)。

広報委員:「塩谷郡市医師会だより」を5~6回/年発行する(阿久津)。

対外的な広報については医師会ホームページを活用する。より多くの方に興味をもってもらうには、内容を常に新しくする必要がある。会長のページが新しくなったのでアクセスして欲しい。情報発信したい方は管理者まで連絡を(尾形新)。

議題2 平成18年度医療機能分化推進委員会活動予定

- (1) 3年間の医療機能分化推進事業の報告書作成
- (2) 「かかりつけ医のココロ」講演活動
- (3) 「かかりつけ医のココロ」増刷
- (4) 連携パス(クリティカルパス)の作成と運用
- (5) 「連携くん」の普及と内容充実(岡)

また、奥山理事より「連携くん」に(手術術式)や病理所見を入力しているのを見て欲しい。閲覧しこたが発信者にわかると入力の意欲が向上するのではとの意見があり、確認ボックスの設定などを業者と交渉する旨、岡委員長より回答があった。

議題3 公開講座について

第2回生活習慣病予防講座平成18年10月1日(日)さくら市公民館にて開催を予定している。「脳卒中のリスクファクターと予防~特に喫煙について~」と題して杏林大学の作田学先生の講演を予定している。社会活動委員会においてタイムテーブル等準備を始める。

また、禁煙をアピールする88日間のwalkingがあり、6月4日(日)夕方さくら市を通過します。興味のある方は担当の森島まで。(森島)

議題4 その他

医師会活動について、会長が以下のように述べた。

- 1) なるべく早い時期に各種委員会を開き活動を開始する。
- 2) 終末期医療について認識を深め連携を模索する。
- 3) 医療廃棄物の問題に取り組む。
- 4) 医師会活動実現のため、県会議員選挙や参議院選挙の際に影響力を発揮していく。
- 5) 塩谷地区の医療供給体制について、医師会、中核病院、行政を交え、安心できる地域医療の構築を目指す。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/ shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	阿久津博美 akutsuiin@crocus.ocn.ne.jp 戸村 光宏 mtomura@sirius.ocn.ne.jp	川原 shioya@triton.ocn.ne.jp 坂和 sakawa@e-shioya.jp

塩谷地区休日夜間こども診療室開設1カ月が過ぎて

医師会および塩谷・黒須病院勤務医の協力を得て、平成18年4月から「こども診療室(しおや・くろす)」が診療を開始しました。4月は休日が6日あり全体で77名が受診され、1ヶ所あたり1日平均6.4名(1~16)と予想以上の患者さんがありました。2市2町の広報活動によるところが大ですが、こども診療室は住民のニーズに



合っていたものと胸をなでおろしております。

詳細を見ますと、「しおや」の受診者は38名で、そのうち27名(71%)は矢板市の方です。症状では発熱

が28名(74%)、年齢では1~6歳が25名(66%)、時間帯では午後6:30~7:30に25名(66%)、医療福祉大病院へ紹介した方が1名ありました。「くろす」の受診者は39名で、さくら市の方が26名(67%)、発熱が31名(79%)、1~6歳が25名(64%)、6:30~7:30が26名(67%)と同様の傾向を示しました。

塩谷地区医療対策協議会において、塩谷地区の地理的な特徴から1ヶ所の診療室では対応が難しいとの判断があり、矢板市とさくら市の2ヶ所に診療室が開設されました。

まだ1ヶ月が経過したばかりですが、両者ともほぼ同数の患者さんがあり、協力医師の負担は2倍になりますが、住民の利便性にかなうものと考えております。今後も受診動向を見極めながら、こども診療室の運営に反映させていきたいと思っております。ご指導のほどよろしくお祈りいたします。また塩谷・黒須病院のスタッフの方々には、準夜帯の仕事量が増加し、毎回医師が代わる診療体制のためストレスフルな勤務となっているかと思っております。この場をお借りしてお礼申し上げます。(文責：阿久津博美)

●塩谷都市医師会学術講演会のご案内

肝細胞癌の特性と診療の実際 肝癌撲滅に向けて

開催日時：平成18年6月22日(木)19時

開催場所：さくら市保健センター 集団指導室

自治医科大学消化器内科講師 磯田 憲夫

「肝癌の局所治療」

自治医科大学中央手術部外科教授 安田 是和

「肝癌の外科切除と肝移植」

獨協医科大学消化器内科教授 菅谷 仁

「専門医に紹介すべき肝癌予備軍」

後日往復はがきをお送りしますがコミディカルの方々も是非参加願います。

加藤克彦先生支援署名運動ご協力ありがとうございました
1,000人以上も集まり、関係機関に送りました。

塩谷都市医師会学術講演会

日時：平成18年5月16日(火)19時~

場所：さくら市保健センター

講師：獨協医科大学循環器内科助教授 堀中繁夫先生

講演：「冠動脈疾患の治療と予後~JELISの結果を生かして~」

要旨：クリントン前米大統領が冠動脈バイパス手術を受けたことは有名であるが、リスクファクターは高カロリーなジャンクフード嗜好と運動不足であるといわれている。



ここ20年間、日本人の

血圧や血糖については大きな変動はないが、総コレステロール値は平均で30~40mg/dl上昇、BMIは22から24前後に増加した。シンドロームX、死の四重奏、内臓脂肪症候群などと呼ばれるメタボリックシンドロームの患者数は1300万人と推定されている。欧米様の食生活変化からマクドナルド世代と呼ばれている。魚油の摂取量は年々減少し、逆に冠動脈疾患は増加の一途である。EPA(イパデール)の大規模臨床試験の結果、心血管イベントはEPA投与群で19%減少した。理由は脂肪蓄積の抑制作用とプラーク安定化作用によると考えられる。またEPA投与は抗炎症作用と抗酸化作用から内膜肥厚を抑制し冠動脈ステント挿入後の再狭窄も1/3に減少させる効果があった。

急性心筋梗塞の診断と治療については、発症6時間以内の治療が有効とされており、早期に専門施設へ搬送する必要がある。発症48時間以内、2ヶ月以内に胸痛など症状に変化がある狭心症は心筋梗塞に進展しやすいので注意が必要である。冠動脈造影とステント挿入が主流であるが、最近では高速造影CTでも冠動脈描出が可能になりつつある。血管内超音波(IVUS)で狭窄の程度だけでなくプラークの性状を診断し治療する研究もなされている。

しかし、冠動脈疾患においては予防することがより重要である。メタボリックシンドロームに陥らないためにはウェスト周囲径85cm以下、中性脂肪150mg/dl以下、血圧130mmHg以下、空腹時血糖110mg/dl以下に向けて生活習慣を改善する、そうすれば獨協医大のヘリポートも必要なくなるだろう。

●塩谷総合病院病診連携講演会のご案内

開催日時：平成18年6月28日(水)18時45分

講師：自治医科大学病院長 島田和幸教授